

障がい児教育 理論 研修会 終了報告

テーマ	「場面緘黙とは～一人の経験者から～」	
日時	平成30年8月10日(金)13:00～16:00	
会場	石狩教育研修センター 2F 研修室 A・B	
講師	<p style="text-align: center;">大橋 伸和 氏</p> <p style="text-align: center;">(肩書:)全国障害者問題研究会会員</p>	
参加者	66名	
研修会 の 様子		<p>場面緘黙を克服した実体験から場面緘黙とはどういったものなのかという導入から、緘黙克服後の支援の在り方について網羅的に講演して頂きました。天気も良く会場も熱気に満ちていましたが、参加者の方も集中して大橋さんの話に聞き入っていました。</p>
		<p>最初に自身の経験談から場面緘黙の症状について説明して頂きました。そして、場面緘黙の症状が出るまでの経緯、それによる不登校、引きこもりについて具体的なエピソードを交えながら説明して頂きました。その時、当事者がどのように感じ、考えていたかという貴重なエピソードでした。</p>
		<p>次に、場面緘黙克服の要因を分析した話では、当人の思い、数々の人の支援や自分の居場所の存在が克服につながったとお話いただきました。また、途切れの無い支援が克服につながったと振り返っていました。教育ができる役割とは、支援の在り方とはどのようなものなのかをおさえることができました。</p>
		<p>次に、場面緘黙克服後の困難さ(二次障害)からの支援の大切さについて、お話いただきました。大学に入学してから、人とのコミュニケーションの困難さに直面した経験や二通先生に相談し、学生の自助グループ「雑談会」を立ち上げた経緯をお話していただきました。克服した部分に留まらず、その後の支援方法についての参考になるお話でした。</p>
		<p>最後に場面緘黙支援で大切なことを以下のようにまとめて頂きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人違った状態で違った支援方法があること ○居場所の保障(安心感)○当事者のその時の状況に合わせた方法○言葉を発する以外の意思表示方法の保障(安心感)○言葉を必要としない役割を担うこと(自己肯定感、自信)○場面緘黙後の支援の大切さ。